

編集後記

第二号をお届けいたします。本号の編集作業中に、本会の会員でいらっしゃつた山田かん氏の訃報に接しました。詩人として批評家として、常に現実に厳しく対峙し続けておられた山田氏、若い世代には寛容に暖かく助言をしてくださつた山田氏のお姿が懐かしく心に浮かびます。氏が書き残した力強い言葉と向き合ひながら、自分を鍛えてゆきたいという思いを強くしています。本会に豊かな示唆を与えてくださつた山田かん氏に改めてお礼を申し上げ、心よりご冥福をお祈りいたします。

第二号にも、この一年間に研究会において研究発表をされた方をはじめ、多くの方が玉稿を寄せてくださいました。海外において原爆投下がどのように報じられていたかを当時の新聞記事に探る新しい試みも始まりました。裏表紙の被爆くすのきの苗木のごとく、冊数を重ねる毎に内容を充実させてゆきたいです。(N)

原爆文学研究 2

二〇〇三年八月一日発行

編集 原爆文学研究会

八〇一八五〇

福岡市中央区六本松四一二一

九州大学大学院比較社会文化研究院
花田俊典研究室 気付

発行 花書院

八〇一〇一三

福岡市中央区白金二一九一六
TEL 〇九二〇〇六七
FAX 〇九二〇〇四四四二

定価 一一〇〇円(本体一一四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター
扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。
◇継続購読は、花書院「原爆文学研究会」にお
申し込み下さい。送料は無料となります。